



県・有形文化財 美術工芸品（彫刻）

もく ぞう じゅう いち めん かん ぜ おん ぼ さつ りつ ぞう
木造十一面観世音菩薩立像

魚津市小川寺（神宮寺）

ネズの一木造りで鎌倉時代の作と考えられる。身の丈約55cmで、一面に木目があらわれている。手と足の先、頂上仏などは後世の補修がうかがえる。全体にススで黒ずんでおり、顔はやや沈んだ表情であるが、腰を少し前にかがめ、足をわずかに踏み出し、静かななかにも動きを表わそうとしている。

衣服は簡略で、刻みも浅いが、下半身の流れるような天衣は軽やかな線で表現されている。眉間の白毫は瑪瑙が埋められており、左手に水瓶を持ち、右手は施無畏印を結び、頂上仏は宝冠台でしっかり止められている。

この仏像は、松倉城主椎名氏の守護仏であったが、松倉城落城の際、古鹿熊の神宮寺へ置いて逃亡したと伝えられている。雨乞菩薩として、また眼病治癒の菩薩として信仰が篤かったが、神宮寺のあった古鹿熊が廃村となったため、現在、魚津歴史民俗博物館の一室に安置してある。なお、製作年代は不明であるが、仏像を納めていた木組みの厨子の背面に、「天正4年3月10日肥前守泰胤」と墨書してあるのが確認できる。